



上岩出小学校
学校だより 卒業号
令和2年3月19日
文責：柏木

(校訓) ^{はな}花のように ^{うつく}美しく ^{みず}水のように ^{いし}すなおで ^{つよ}石のように強く

卒業に贈ることば

3月と言えば、「年度末（まとめの月）」「卒業式」「別れの月」などが思い浮かびます。一般には、最後、終わりというイメージがあるように感じられます。実際私自身も寂しく、もの悲しい感じがしてました。

ふだん見慣れた景色も、角度や視点を変えることで新たな見え方や感じ方、発見が生まれます。そこから、私は3月の印象が変わりました。寒い冬を乗り越え、草木が芽吹く春の訪れを感じる春は、生命の輝きを感じる月となります。

学校では、1年をかけて勉強はもちろん、体力や行動、考え方などその学年で身につけなくてはならないことを学んでいきます。教師は保護者のみなさんとはまた違った側面から、身近に子どもたちの1年間の成長を感じ取ることが出来ます。

特に6年生は、6年間の小学校生活での成長を実感できるときでもあり、何より小学校生活を終えいよいよ中学校のステージへ踏み出して行く姿を見られます。

この時期、教師になり子どもたちの成長に関われたことを幸せに感じ、報われた思いがします。この思いは、最終学年を担当した教師だけでなく、入学当時から子どもたちに関わっている教職員みながそう思っています。

さて、本年度の卒業式は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、突然3月2日から臨時休業となってしまった中での卒業証書授与式となりました。各地で、卒業式の中止などといったニュースが流れる中、規模は縮小となってしまいましたが、卒業式を挙行できたことを喜びたいと思います。

卒業生への贈る言葉は、今までの学校だより『大池』や育友会新聞『そよかぜ』、そして、本日の式辞などで伝えさせていただきました。それらの言葉の中から一つでもみなさんの心に届き、そして響き、これからの輝ける未来に自分なりの考えを思い巡らせる時の一助になっていただければと思っています。

卒業、おめでとう。校庭の「えのき」とともに、いつまでも見守り、応援します。